



7 肥後市長から地域支援員に委嘱状を交付 8 地域からさまざまな提案が出される 9 校区を上げて行った避難訓練 10 につこば防災まつりで行ったキャラクター総選挙 11 15回にわたり、行われてきた地域会議 12 記念すべき「につこばまちづくり通信」第1号 13 につこば防災まつりの一幕。自衛隊の車両が西小林小に



1 2 総会の前に披露された「きばっみる会」による兵児踊りと喜躍太鼓「六奏」の演奏 3 4 総会資料をじっくりと確認する参加者 5 運営の中心となる運営委員会の皆さん 6 議長を務めて議事を進行する小倉和也さん

モデル地区須木地区・野尻地区でも準備が進んでいます

西小林中学校区と同じモデル地区の須木地区と野尻地区。それぞれの地区で、支援員と担当職員が、きずな協働体の設立に向けて、取り組んでいます。須木地区では、防災をテーマにアンケートを実施。回収率は約84%で、災害時に不安なことや、地域のつながりについて現状を把握しました。野尻地区では、こういった手法で、地域の魅力や課題を再発見するかが協議されています。



須木地区・野尻地区の支援員と担当職員が参加した研修会（平成25年3月）

地域住民の思いを形にする
きずな協働体が誕生

西小林中学校区は、昨年5月に協働によるまちづくりのモデル地区に指定。住民代表の地域支援員12人と市役所の担当職員13人が、きずな協働体の設立に向けた取り組みを始めました。協議で出された課題の中から、まずは特に身近な「防災」を中心に取り組んでいくことが決定。「につこば防災まつり」や校区全域の避難訓練実施し、住民がまちづくりに参加するきっかけを作ってきました。

12月から、地域の各団体などが加わり、話し合いを開催。「地域が主体的に取り組むこと、取り組みたいこと」について話し合いを重ねました。その結果をもとに、まちづくり協議会設立準備会で具体的な事業計画などを検討。各部署ごとに、一次避難所への表示板設置や、西小林駅にトイレ設置を要望していくこと、伝統・文化カレンダーを作成することなどの案が設立総会に提出されました。ずっと安心して暮らせる地域に。住民の思いが形になるひとつの協働体が始動しました。

特集1 モデル地区西小林中学校区でまちづくり協議会が誕生

ずっと安心して幸せに暮らせる地域であるために一。
西小林中学校区で、新しいまちづくりの形が産声を上げました。
「につこばまちづくり協議会」。
地域のみみなでまちづくりに取り組む「きずな協働体」を紹介します。



深草彰三 会長

「きずな協働体」の第1号
西小林中学校区で設立

6月15日、西小林中学校区で、「につこばまちづくり協議会」が設立されました。この協議会は、地域が一体となって、自主的に持続可能なまちづくりを行う「きずな協働体」の第1号となるもの。

同日、西小林地区体育館で開催された設立総会には、住民ら300人が参加。役員、規約や市からの交付金80万円を盛り込んだ予算などが承認されました。また「安全・防災」「健康・福祉」や「環境・美化」など6つの専門部会を設置。各部会員を中心に、住民総参加でまちづくりに取り組んでいくことが決まりました。会長に選ばれた南西一の西区の区長の深草彰三さんは「安心安全で活気ある地域を目指し、一致団結していきたい」とあいさつしました。